

「～しはじめる」「～しかける」「～しだす」

※ 「～しはじめる」：＜継続的な事態の最初の段階の実現＞

※ 「～しかける」：＜事態の初期の段階に入る＞

(1) 読みかけた。

→本のページを開いたが、一行も読まないでやめたとか、最初の方を少し読んでやめたとかである。

(2) 交通事故で死にかけた。

→瞬間的事態では、事態の＜初期の段階＞は、事態の＜実現の兆候＞を指すことになる。

(3) 手紙を書きかけたところへ客が来た。

(4) 薬を飲みかけたがにがくて吐いた。

→＜事態の初期の段階に入り＞その後＜別の事態が続く＞という含みがある。

※ 「～はじめる」「～だす」は瞬間的なものや数秒のできる動詞には使えない。ただし、動きや状態の対象が単数ではなく複数の場合や動作が繰り返され行われた場合は使うことができる。

(5) ×山田先生は、学校に到着しはじめた。

(6) ○7時半になって、徐々に社員が到着しはじめた。

(7) ○夕方になって、町のあちこちのあかりがつきはじめた。

(8) ×伝染病で太郎が死にだした。

(9) ×田中君は佳乃ちゃんと結婚しだした。

(10) ○伝染病で次々と人が死にだした。

(11) ○まわりの友達が次々と結婚しだした。

※ 「～はじめる」は＜最初の段階＞と＜それ以降の継続＞とを考えるのに対し、「～だす」は、＜最初の時点だけに注目する（開始が急である）＞

(12) 急に（突然・いきなり）走りだした。

(13) ?ゆっくりと（のろのろと）走りだした。

(14) 日が暮れはじめた。

(15) ×日が暮れだした。

※「～だす」は、＜継続的事態が発生する＞＜最初の時点だけに注目する＞という特徴を持つと言える。また、「～だす」のほうが「～はじめる」よりも事態を＜客観的＞に捉えているという指摘がある。さらに「～だす」は人間行為に使われても、意志性がない。

(15) ×そろそろ本を読みだそうか。

参考資料

安藤節子・小川誉子著(2001)『自動詞・他動詞、使役、受身』スリーエーネットワーク

庵功雄・清水佳子著(2003)『時間を表す表現』スリーエーネットワーク

国立国語研究所(1978,1981)『日本語の文法 上・下』

寺村秀夫(1982,1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ・Ⅱ』くろしお出版

野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』くろしお出版

益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版

益岡隆志(1993)『24週日本語文法ツアー』くろしお出版

宮島達夫・仁田義雄(編)(1995)『日本語類義表現の文法 上・下』くろしお出版

野田尚史(1996)『「は」と「が」』くろしお出版

森山卓郎(2000)『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房

森田良行(2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房

高橋太郎(2003)『動詞九章』ひつじ書房

日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版

村田美穂子編(2005)『文法の時間』至文堂